路面電車と都市の未来を考える会
RACDA
かわら版
人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして　RACDA
第53号
2008/10

経済グローバル化時代の地域公共交通

Text by 岡 将男

■「小泉改革」の行き過ぎの例として、交通部門の規制緩和がある。

採算のとれない地方の電車やバスがどんどん廃止され、その反省から国土交通省では地域公共交通活性化再生法を制定した。

日本は人口密度が高く、世界的にも珍しく公共交通を民間会社が経営できた。しかし自動車社会の急速な発展の影響だけでなく、少子化や団塊の世代の退職で、公共交通の経営は軒並み苦しくなっている。東京大阪以外の都市圏では公共交通は瀕死の状況にある。

しかし一方で地球温暖化対策のためには、地方都市では移動における公共交通の分担率を１５％程度（現状岡山では５％程度）にはしなければならなくなる。そのためには自動車交通を計画的に削減し、公共交通を充実させる政策が不可欠になってくる。そろそろ日本でも交通政策において具体的な数値目標を設定する必要がある。

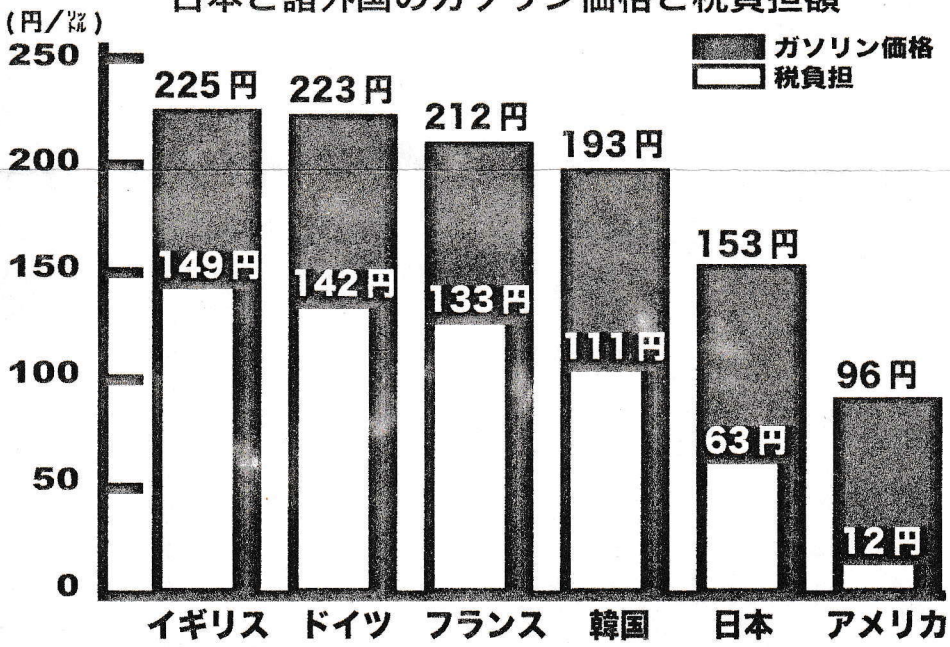
さて我々ＲＡＣＤＡは公共交通推進のＮＧＯだから、岡山地域のバスマップを発行している。先日九州の人材派遣会社から「岡山の勤務者のためにバスマップを１００部購入したい」とのお話があった。「小泉改革」の結果、製造業における人材派遣が解禁され、企業収益改善には貢献し国際競争力はついたものの、人材派遣労働者の年収はとても自動車など所有できないレベルになってしまった。公共交通の衰退した地方では、若者たちは移動の自由を失っている。また年収の低下が原因で若者はさらに結婚しなくなり、当然子供も作れなくなるから、国内消費の低下にもつながっている。自動車業界にとっても国内で自動車が売れなくなっているのは、下請けの底辺に位置する部品工場で派遣が増加したためではないか。まるでタコが自分の足を食うようなものである。

先日岡山経済同友会で、神野東大教授の講演を聞いた。「グローバル化の結果、貧富の差が広がるので、ＥＵ諸国では医療福祉に税金投入をして所得再分配を行っている。その場合地方分権が必要で、日本における道州制導入もそうした文脈で考えるべきである。」と。これを聞いて、私は公共交通における税金投入も、ある種の所得再分配と考えるべきだと思った。早速お帰りになる神野教授にお話したところ、賛同を得られた。

フランスではいまＬＲＴ※導入ラッシュが続いているが、それは交通権が確立され、地方分権が確立され、財源が確保されたから可能になった。ＥＵ諸国では、ガソリン価格のうち、税金にあたるのは１３０円程度と日本の倍ほどで、ガソリン代が高いのに合わせた経済構造にもなっている。そしてその高いガソリンの税金を医療福祉、公共交通の維持に流用している。税金は高くても、生活の不安を取り除くことができる。

もはや経済のグローバル化はとどめることのできないものだとすれば、地方自治体はこうした生活重視の政策を進め、所得再分配を図る必要がある。RACDAも参加する全国路面電車ネットワークの活動も、こうした視点から再検討して、地域の公共交通への税金投入と利用者目線でのコントロールについて、市民に啓蒙していく必要があるのではなかろうか。

日本と諸外国のガソリン価格と税負担額

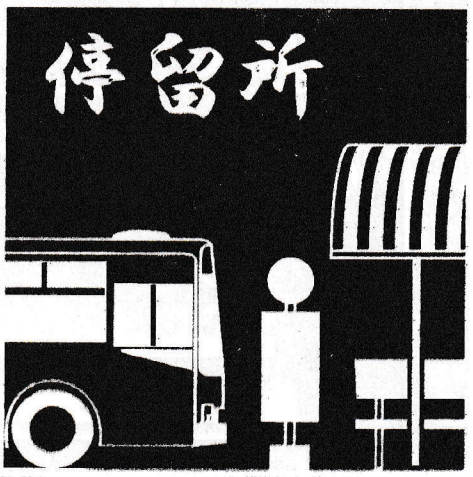


毎日新聞ホームページより（２００８年春ごろ）

※ＬＲＴ　次世代型路面電車。低騒音、バリアフリーなど時代が求める最新技術が導入されている。「時代遅れ」というイメージを性能的にもデザイン的も刷新して、歩行者中心の街づくりの仕掛け（装置）として海外では新設・復活が続いている。岡山のＭＯＭＯはＬＲＴ対応の電車。

RACDA 事務局
〒700-0823　岡山市丸の内 1-1-15(禁酒会館 3F)
TEL/FAX 086-232-5502　E-mail racda_okayama@ybb.ne.jp

特集「バスの日」とバスマップ



■いささか旧聞ではあるが、9月20日が「バスの日」だというのをご存知だろうか。これは21年前の1987年に日本バス協会によって制定された 記念日である。その由来は、1903(明治36)年9月20日に京都の二井商会が免許を受けてバス事業を開始したことによる。以来、毎年全国でこの日を記念する行事やイベントが行われている。

岡山におけるバス事業は、1918(大正7)年に宇野自動車(宇野バス)の創業者・宇野三郎氏がT型フォードで岡山～備前(片上)間を運行したことから始まった。以来今年で90年。この間に岡山県内のバスはさまざまな動きがあった。特に、筆者がバス趣味を始めてからのこの20年余りで、県内の路線バスを取り巻く情勢は大きく変わっていった。

筆者の手元に一冊の小冊子がある。「岡山県バス沿線ガイド」というこの小冊子は、岡山県バス協会が利用者向けに作成したガイドブックだ。筆者も手にとって調べたりしていたが、あまりの間違いの多さに辟易してしまったのを覚えている。結局、増刷はされたものの改版は一度も行われること無く現在に至っている。ちなみにこの冊子、1988年のバスの日記念事業として発行されたものであるが、現在は入手不可能である。

時は進み、自動車社会は「車がなければ生活できない」という声が出るまでに進んだ。生活の足を守る公共交通を取り巻く状況は厳しい。現在では市民団体であるRACDAが「ぼっけえべんりなバスマップ」を作成し、京橋朝市会場をはじめ中心部書店など各所で販売をおこなっている。そして、RACDAの取り組みに触発された全国各地の有志が次々にご当地のバスマップやバスブックを作成、利用者の手に渡っている。

RACDAにおいては2006年以降、バスマップの改版をおこなっていないが、新たな取り組みとして忘年会シーズンに照準をあわせた「のんべい便利マップ」を昨年末に発行した。また、これ以外にも新たな取り組みを行う予定であるので、ご期待いただければと思う。

(石井孝幸)